

(資料52) 国立環境研究所コンピュータシステム最適化計画 (概要)

平成20年3月12日
国立環境研究所

1. 経緯

平成17年6月29日付け「独立行政法人等の業務・システム最適化実現方策」(各府省情報化統括責任者(CIO)連絡会議)により、独立行政法人等における主要な業務・システム(年間のシステム運用に係る経常的な経費が1億円以上)について、平成19年度末までの出来るだけ早期に最適化計画を策定することが決定された。

これを受け、NIESにおいても対象となる国立環境研究所コンピュータシステム(スーパーコンピュータシステム及びNIESNET)について、以下のとおり最適化計画を策定するものである。

2. 業務・システム最適化の概要

平成23年度を目標として、以下の最適化を実施

- ・次期スーパーコンピュータの導入に向けて費用対効果の高いシステムの導入に必要な検討
- ・NIESNETの運用面を中心に、業務・システムの見直し等を行い、より一層の最適化実施

3. 現状と課題

- (1) 次期スーパーコンピュータシステムの検討に向けて早期検討が必要
- (2) NIESNET運用に関する業務負担が高い
- (3) システム運用管理・保守の作業効率改善が必要
- (4) 情報セキュリティ対策の徹底が必要
- (5) 内部情報共有に係る事務処理等が非効率

4. 最適化の実施内容

- (1) スーパーコンピュータシステムについての効果は、将来における研究上必要な機能・性能の検討とともに費用面での効果について検討

研究上の必要性、機能・性能、技術・方式の検討とともに、必要経費についても最小限に抑えるために、十分な競争となるよう幅広い提案が求められる総合的な仕様検討を進めることで、機能面・費用面の双方からみて最適となるシステムの導入を目指す。

- (2) NIESNETの運用経費年間約1,650万円(試算値)の経費の削減、163人日(試算値)の業務処理時間の短縮の見込み

①運用IT化等推進

各種申請手続きに関して、人や場所の情報と適切な関連付等による効率化

ア. 基盤DB(人DB・場所DB)の整備及び各システムとの連動(内部開発)

イ. 電子承認システム導入

ウ. 最適な次期NIESNETの検討

②システム運用管理・保守の効率化

監視範囲の拡大等により、問題対応への早期かつ確実な状況把握

③効率的なセキュリティ確保

効率的な教育体制の整備、サーバのセキュリティ向上

ア. 教育の効率的な推進(汎用e-Learningシステム導入)

イ. サーバの適正な管理(管理方法の明確化)

④内部情報共有改善

イントラネットでの所内情報の適切な周知、事務の効率化のための見直し

独立行政法人国立環境研究所 業務・システム最適化工程表

最適化対象業務	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
N I E S N E T				
	基盤DBの整備	各システムとの連動	電子承認システム導入	運用
	運用IT化等推進		次期システム検討	
	システム運用管理・保守の効率化	監視範囲拡充強化	運用	
	効率的な情報セキュリティ確保	サーバの適正な管理	教育の効率的な推進	運用
内部情報共有改善			イントラネット再構築	運用
スーパーコンピュータ調達検討		プログラム移行可能性等検討		
			次期システム検討	